

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 21 年 12 月）

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

御岳火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が断続的に発生しました。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 12 月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 2、図 4）

御岳火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は 20 回（11 月：7 回）でした。諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。噴煙の最高高度<sup>2)</sup>は火口縁上 1,000m（11 月：1,200m）でした。

22 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、御岳火口内の詳細な状況は噴煙のため確認できませんでした。赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による観測では、北東側の内壁及び外壁下部に高温部分が認められました。なお、これらの高温部分は従前から存在するものです。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

火山性地震の月回数は、A 型地震が 25 回（11 月：89 回）、B 型地震は 220 回（11 月：300 回）で、前月と比べてやや減少しました。

火山性微動の月回数は 311 回（11 月：193 回）、継続時間の月合計は 232 時間 2 分（11 月：345 時間 25 分）でした。

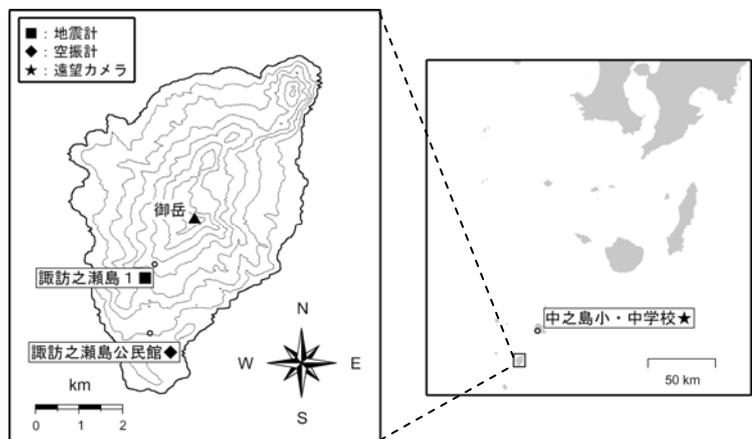


図 1 諏訪之瀬島 観測点配置図

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 1 月分）は平成 22 年 2 月 5 日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

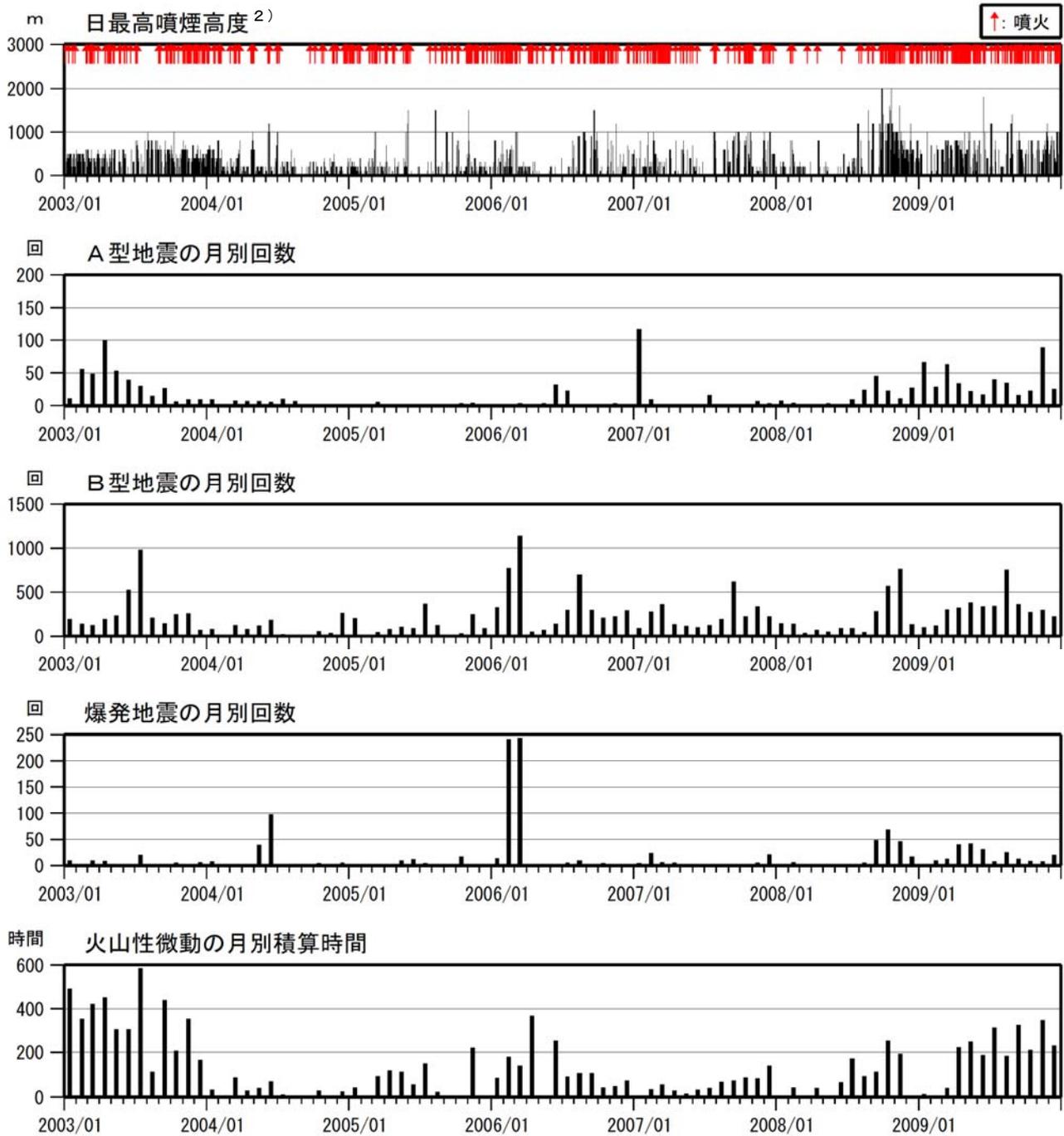


図 2 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003 年 1 月～2009 年 12 月）

- ・長期にわたり噴火を繰り返しています。
  - ・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- <12 月の活動状況>
- ・爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は 20 回（11 月：7 回）でした。

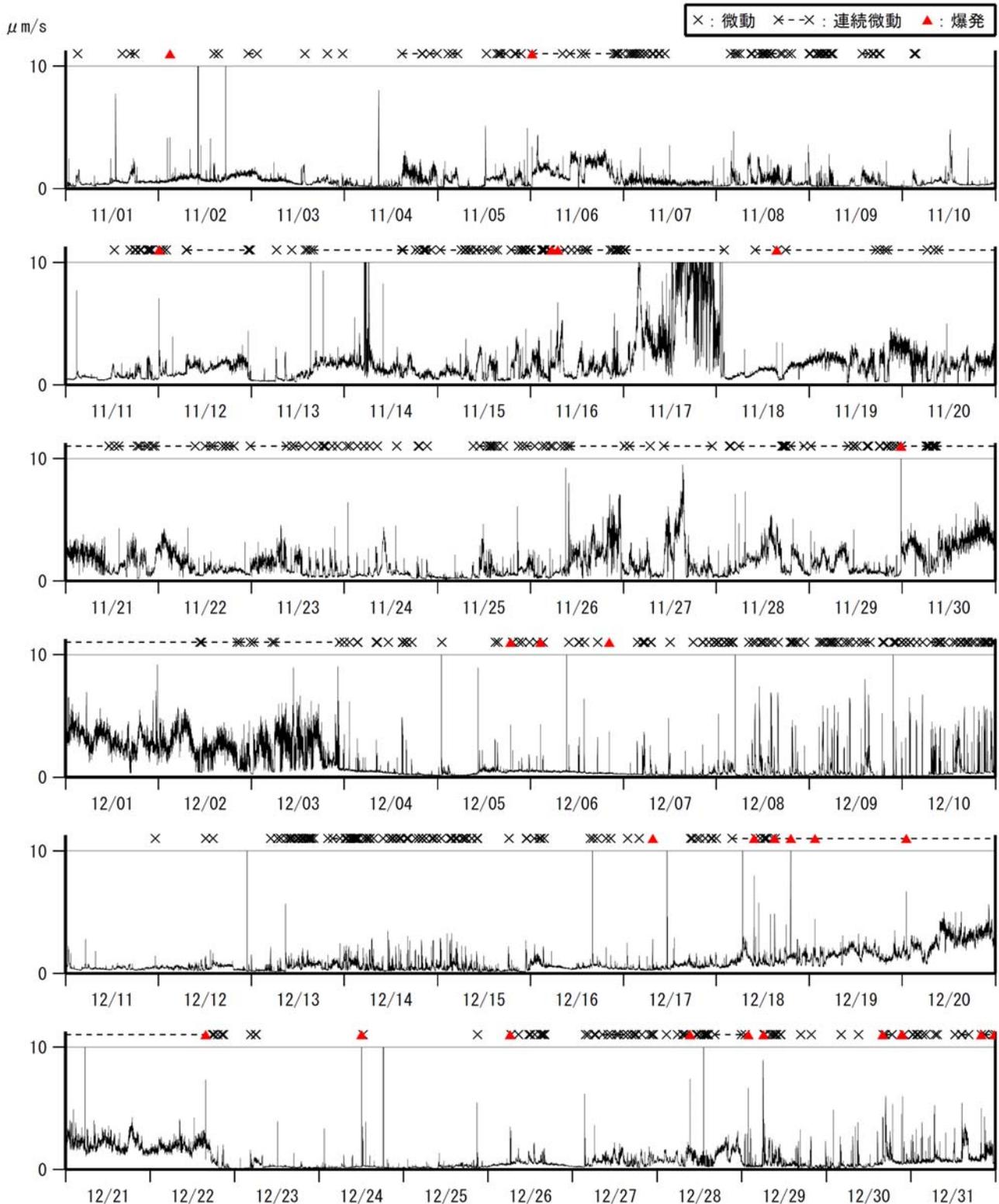


図3 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化（SWA1 上下成分）（2009年11月～2009年12月）  
 <12月の活動状況>

火山性微動の月回数 は 311 回（11月：193回）、継続時間の月合計は 232 時間 2 分（11月：345 時間 25 分）でした。

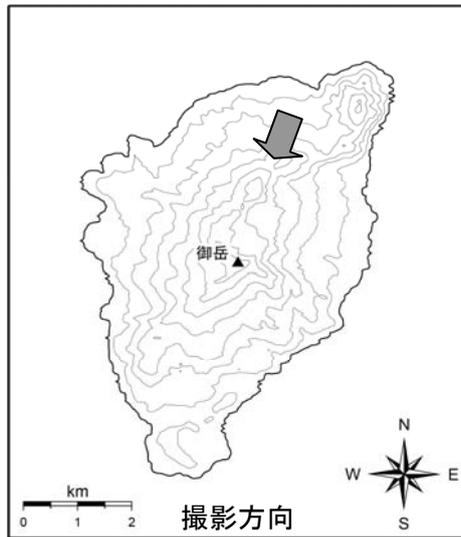
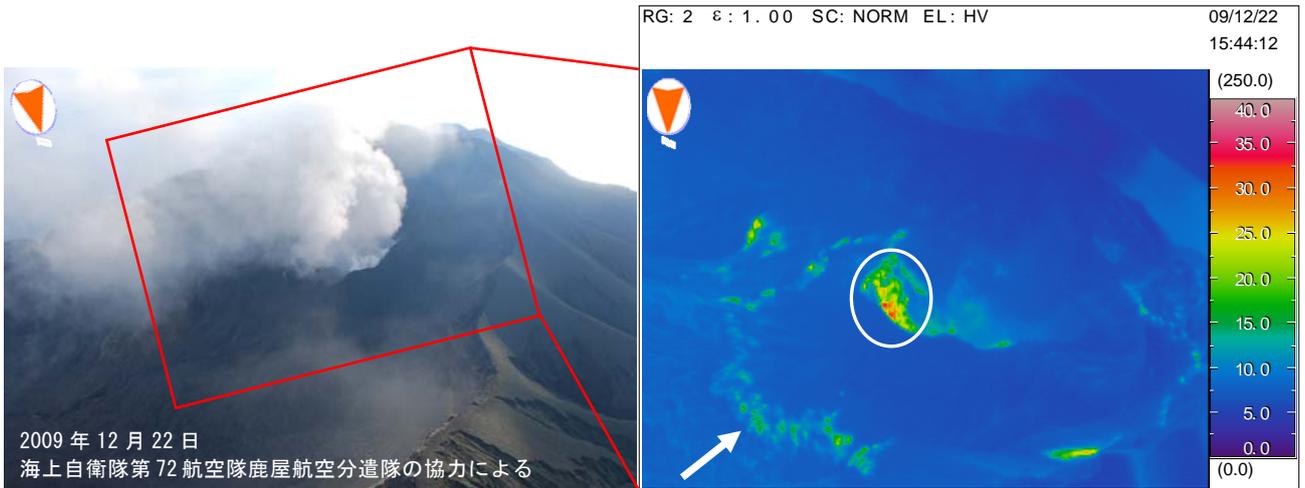


図 4 諏訪之瀬島 赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による御岳火口の地表面温度分布  
北東側の内壁（○）及び外壁下部（矢印）に高温部分が認められました。